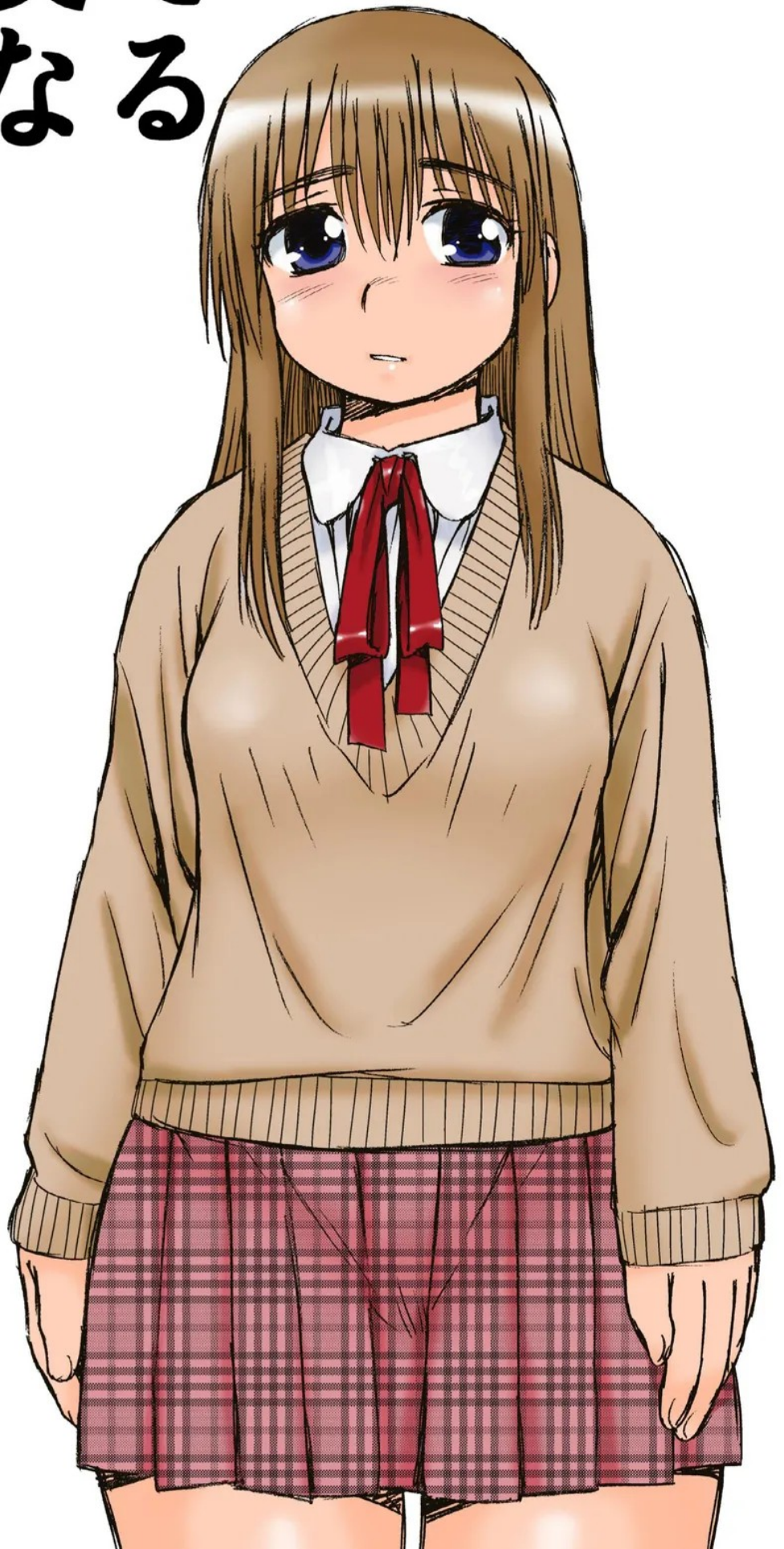


僕が僕で
なくなると
日。

成年向



DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

LINEで知り合ったおじさんは
こんなデブで不細工な僕のことを
「可愛い可愛い」と言ってくれます

「お前を俺の女にするからな」
と言われて身体が熱くなって
うつむいたまま思わず
頷いていました

それからおじさんに
何度も抱かれました

僕が今まで知らなかった
僕の身体の気持ちいい
ところをたくさん
開発されて…
おじさんとのセックスが
忘れられなくなって
僕はもうこのおじさんの
モノになったんだなと
思いました



おじさんは僕のお尻の穴を拡張するのが好きみたいで、今まで見たことないような大きなバイブを僕のお尻の穴にいつもねじ込みます

「お前の穴もすっかりケツ穴セックスが好きそうな縦割れの穴に変わってきたな。もっと開発してメス穴みたいにしてやるぞ」

最初は怖かったけど、今はもっとおじさん好みのいやらしいお尻の穴にして欲しくて大きく股を開いてお尻の穴をヒクヒクさせちゃいます



お尻の穴に太いのを突っ込まれてかき回されたらもう何も考えられなくなってお尻の穴からダラダラと汁があふれてきます
おちんちんと乳首をポンプで吸引されて痛いぐらいなのに全身に電気が走って気持ち良くて、オナニーしてイク時みたいな快感が何度も何度も押し寄せてきます

さっきまで張り裂けそうだったお尻の穴が段々と力が抜けてだらしく
広がっていくのが自分でもわかります

引き返せなくなる恐怖ともっと広げたい欲望で
僕の頭の中がグチャグチャになって
やがて真っ白になって
ゆっくりと僕は
壊れていくのです

それがとても
気持ちいいのです



お尻の穴でイクようになってから
もうおちんちは勃起しなくなりイク時に精液を
ただダラダラ垂らすだけになりました

もうおちんちんでオナニーはしてません
お尻の穴を犯されないといけな身体に
なってしまってるのです
そんな僕のお尻の穴をおじさんは
「最高に気持ちいい穴だ」と言って
たくさん精液を射精してくれます
そして僕はまたおちんちんから
ダラダラ精液を垂らすのです



お尻の穴に射精されるのは大好きです
おちんちんが僕のお尻の穴の中で固く
膨らんでドクンドクンと脈打つと温かい
のが僕の中いっぱい広がっていく感じ…

僕のお尻の穴で気持ちよくなってくれ
たんだなって思うと嬉しくて
お尻の穴から抜かれた精液だらけの
おちんちんが愛おしくて残った精液も
全部きれいに舐め取ります
それだけで僕は少し軽くまたイキます

このおちんちんの為なら何でもしようと
思います

「今度仲間数人でお前のケツ穴
使ってやるからな」とおじさんに
言われて、何本ものおちんちんに
お尻の穴に射精されるのを
想像するだけで
僕のお尻の穴は期待で
ヒクヒクとゆっくり開いて
いきます



先日、おじさんにお金を出してもらって豊胸手術をしてもらいました
胸の皮膚が落ち着いたらもっと大きな胸にするそうです
そうなったらもう普通の男の服は着れません

僕のおちんちんやきんたまも注射や薬のせいなのか小さくなってきてる
ような気がします
勃起もしないし僕のおちんちんはもうすっかり
ダメになってしまいました
それでも先っぽからヌルヌルした汁を出して
イク時には精液をダラダラと垂らします

おじさんはそんな僕のおちんちんを可愛いと
言ってくれますが、僕もそう思います
みっともない姿になってもまだ快感を求めて
ヒクヒクと汁を垂らしてるのはまるで
僕自身みたいです

この先もっと大きなおっぱいになって
お尻の穴に何本もおちんちんやバイブを
入れられながらヒクヒクと汁を垂らして
いるのが僕なのです

僕はみっともない僕自身が
嫌いでしたが
僕が僕じゃなくなって前より
もっとみっともない姿に
なった今

そんな自分を少し可愛いと
思えるようになりました



あれから半年ちょっと経ちました

僕は背が少し伸びたら痩せてきて
嫌いだったみっともない自分の事を
好きになったら痩せるって不思議です

おじさんは前のぼっちょりしてた方が
好きだったみたいですが、可愛くなる
のは楽しいです
髪の毛も伸びてきたのでカツラを被る
事も少なくなりました

みっともない自分が嫌いだった頃は
オドオドしてて、そんな態度の自分を
余計に嫌いになってましたが
自分を可愛いと思えるようになってからは
少し気持ちが楽になりました
そしてもっと可愛らしく…
女の子らしくなりたいと
考えるようになって


僕はまた少し変わっていきました

僕のこの変化はおじさんはあまり
好みじゃなかったみたいで
おじさんは何も言わなかったの
ですが、態度でなんとなく
わかりました

もしかしたら僕に飽きてきてたの
かもしれません

以前の僕なら不安になっていた
と思います
でも僕はこんな風に僕を変えて
くれたおじさんのためにも
もっと可愛くなりたいたとも
考えていました





僕はある日

以前おじさんに連れて行って
もらった事があったハプバーに
ひとりで行ってみました

そしたら初めてナンパされたんです

凄くイケメンの人で何でこんな僕を？と
思いましたが、優しく接してくれて
凄く情熱的に口説かれました

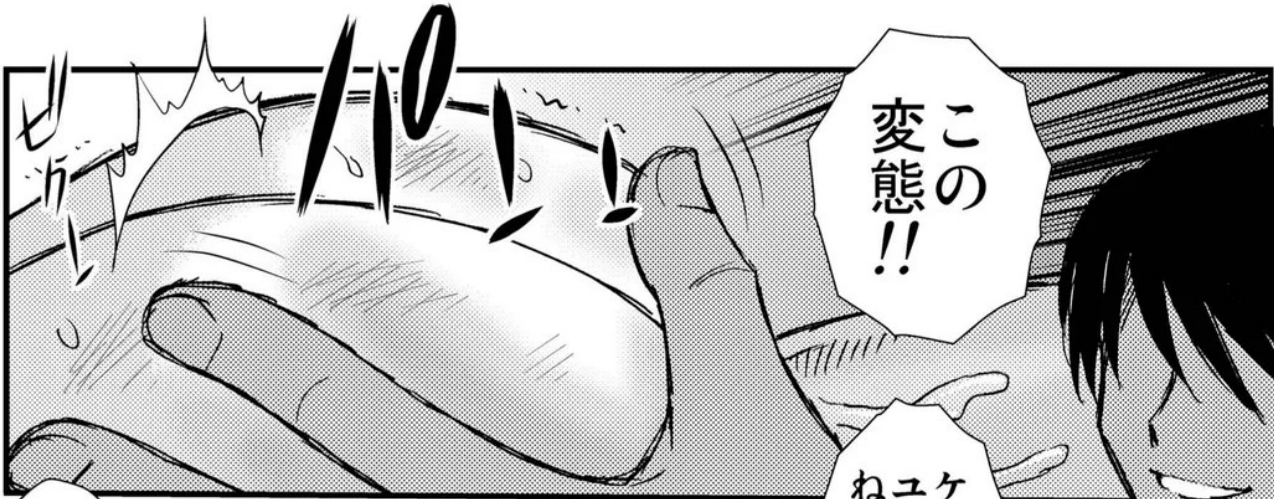
僕は恥ずかしいのと嬉しいので
頭がぼーっとなって
ただうつむいて話を聞いてる
だけでした

いくら自分が可愛くなってきたと
思っても、さすがに本当の女の子と
間違われるような事はないことぐらい
自分でもわかります

そんなおじさんと初めて会った
時には思わなかったような
考えさえ浮かんできました

僕はおちんちんの奥が固くなって
お尻の穴が熱くなっているのを
感じてました

そして肩を優しく抱かれながら
うつむいたまま
僕はこくりと頷いていたのです



この
変態!!

ケツの穴
ユルユルじゃ
ねえか!

もっと
締める!!

はいっ!



いそですっ



どうだ?

チンポ
気持ちいい
か?



ああ...

この
変態!!

女装して
チンポ漁って
たんだろ?

男の人は僕に気遣いをしてくれるおじさんとは
まったく違って自分勝手なセックスでした

あんなに優しくかったのにブタとか変態とか
罵られて、僕の事など考えずに突きまくる
ただの性処理としてのセックス

排泄するような射精
僕はただの穴として使われてました

それでもいやらしい僕の穴は快感を
貪って汁を垂れ流していたのです



男の人は友達を呼んで数人のひとに性処理に使われました
洗っていない臭いおちんちんを何本も舐めさせられて
みんな僕のお尻の穴に次々と排泄していきます

他の人も男の人と同じように自分勝手なセックスで
怖かったのですが、臭いおちんちんを無理矢理
舐めさせられる事や次々と違う形の
おちんちんに犯される事に異常に興奮してる
自分がいました

僕が僕でなくなったあの日に感じた
快感にヒクヒクと震えて汁を垂らす
みっともない僕自身です

僕はおちんちん臭い口で「もっとして」
と言っていました



初めておちんちんを二本同時にお尻の穴に入れられました
今までおじさんに大きなバイブで拡張されてきたお尻の穴でしたが
本物の硬いおちんちんが遠慮なしに突っ込まれるのは全然違いました

おちんちんより大きなバイブを飲み込んできたお尻が張り裂けそうに
痛くて、やがて二本のおちんちんが根元まで入るぐらいまで無理矢理
開かされていきました
それはお尻の穴をダメにされて壊されていくような感覚でした

「お尻の穴ダメになっちゃう！」と僕は叫びました
するとおちんちんはますます硬くなりピストン運動は激しくなってい
「こいつのケツ穴もう開きっぱなしになるようにブッ壊してやろうぜ！」
そう言って次々と交代しながら二本で突き
まくられたのです

僕は何度も何度もお尻の穴で絶頂し
最後は失神してしまいました



朦朧とした意識の中
何枚も写真を撮られたような
気がします
「精液便所にしてくださり
ありがとうございます」と
言わされたような
気がします

あの時自分が壊されて
いくことがとても
心地よかった

僕が僕でなくなり
そして
また変わっていく
僕を壊して
僕として生まれ
かわる



男の人との事をおじさんに話したらとても怒られました
嫉妬の表情は怖かったのですがとても嬉しそうでした

おじさんはいつものように僕のお尻の穴を拡張したりとかはしてくれ
ません。指すらも一切入れてくれませんでした

その代わりに僕のおちんちんを徹底的に苛められました
ゆっくりと尿道を拡張されてチューブの先が入るぐらい
広げられて何かの液体をおちんちんの中に
たくさん注入されました

僕はお尻の穴が切なくておじさんに
いじっておちんちん入れて欲しくて
身体を震わせてましたが、おじさんは
構わずに僕のおちんちんの中に
ゆっくりと液体を入れていきます

僕は段々と意識が溶けて頭の中が
真っ白になっていくようなこんな
おじさんのやり方が大好きです

やがて僕のお腹の中がずっしりと重く
パンパンになっておちんちんが
破裂しそうになりました



やがて切なさの限界になった僕のお尻の穴におじさんの腕がゆっくり
ねじ込まれて荒々しくかき回されます
それは今まで入れたどんなバイブよりおちんちんより気持ちいいもの
でした

そして僕のおちんちんからは注入された液体が噴出します
その液体は適度な粘度があり、もうずっとなかった射精そのものです
拡張され大きくなった尿道を大量の精液が通る感覚は今までに経験
したことがない腰が抜けるような快感です

おじさんとアナルセックスして初めて
トコロテンした時を上回るような快感…

僕は脳が焼き切れるような快楽を
味わいながら
もうこんなの知ったら普通のセックス
では物足りなくなっちゃう
と思ってました

射精はまだ続いています



あれから一年…

おじさんは言った通りさらに豊胸してもっと大きくする手術を受け
させました

肥大化した乳首にはリングを通しました

お尻の穴の周りにはおじさんの所有を示す刺青が入れています

そしておちんちんにはシリコンを入れて常時勃起した状態にされました
尿道はもっと拡張してパックリ口を開いています

勃起してるおちんちんはスカートを穿いて
いてもわかるし、オシッコする時にとても
苦勞するのですが、僕はこの身体をとても
気に入ってます

僕は僕でなくなったのですが
変わっていく僕の中にある僕を
おじさんが見つけてくれた気がします

でも今でも他の人ともセックス
は楽しんでます

どんな姿になっても
まだ快樂を求めて
ヒクヒクと汁を
垂らしてるのが
僕なのでから



僕が僕で
なくなる
日。

成年向

BlueMonday

2014/8 しのぎ嶺

<http://sinozaki.livedoor.biz/>

2014/5 コピー誌で発行したものを
加筆修正しました